**出家 [SHUKKE]**

Voici une double version du texte japonais *Shukke* du *Shôbôgenzô* : après certains paragraphes figure entre parenthèses une autre version un peu plus longue.

Le texte est divisé en 4 parties commençant chacune par une citation. D'où les numéros des 4 parties I, II, II, IV ; la sous-partie A correspond à la citation et la sous-partie B aux commentaires de maître Dôgen.

Ceci a été réalisé dans le cadre des ateliers animés par Yoko Orimo en février 2013. Une traduction provisoire et inédite de *Shukke* vient d'être donnée par Yoko Orimo pour les ateliers de mars, et elle est mise sur le blog <http://www.shobogenzo.eu> où se trouve aussi ce texte japonais.

**I. A。** 禪苑**清**規云、

三世**諸**佛、皆曰出家成道。西天二十八**祖**、唐土六**祖**、傳佛心印、盡是沙門。蓋以嚴淨毘尼、方能洪範三界。然則、參禪問道、戒律爲先。**既**非離過防非、何以成佛作**祖**

（禪苑**清**規に云く、三世**諸**佛、皆な出家成道と曰ふ。西天二十八**祖**、唐土六**祖**、佛心印を傳ふるは、盡く是れ沙門なり。蓋し毘尼を嚴淨するを以て、方に能く三界に洪範たり。然れば則ち參禪問道は戒律爲先なり。**既**に過を離れ非を防ぐに非ざれば、何を以てか成佛作**祖**せん。）

受戒之法、應備三衣鉢具并新淨衣物。如無新衣、浣染令淨、入壇受戒。不得借衣鉢。一心專注、愼勿異**縁**。像佛形儀、具佛戒律、得佛受用、此非小事、豈可輕心。若借衣鉢、雖登壇受戒、竝不得戒。若不曾受、一生爲無戒之人。濫廁空門、**虚**受信施。初心入道、法律未諳、師匠不言、陷人於此。今茲苦口、敢望銘心。

（受戒の法は、應に三衣、鉢具并に新淨の衣物を備ふべし。新衣無きが如きは、浣染して淨からしめて、入壇受戒すべし。衣鉢を借ること得ざれ。一心專注して、愼んで異**縁**なかるべし。佛の形儀を像り、佛の戒律を具す、佛受用を得。此れは小事に非ず、豈に輕心すべけんや。若し衣鉢を借らば、登壇受戒すと雖も竝びに得戒せず。若し曾受せずは、一生無戒の人爲り。濫りに空門に廁つて、**虚**しく信施を受けん。初心の入道は、法律未だ諳んぜず、師匠言はずは、人を此に陷さん。今茲に苦口す、敢へて望すらくは心に銘ずべし。）

**既**受聲聞戒、應受菩薩戒。此入法之漸也。

（**既**に聲聞戒を受けては、應に菩薩戒を受くべし。此れ入法の漸なり。）

**B。**あきらかにしるべし、諸佛諸祖の成道、ただこれ出家受戒のみなり。諸佛諸祖の命脈、ただこれ出家受戒のみなり。いまだかつて出家せざるものは、ならびに佛祖にあらざるなり。佛をみ、祖をみるとは、出家受戒するなり。

摩訶迦葉、隨順世尊、志求出家、冀度諸有。佛言善來比丘、鬢髪自落、袈裟著體

（摩訶迦葉、世尊に隨順して出家を志求す、諸有を度せんことを冀ふ。佛、善來比丘と言へば、鬢髪自落し、袈裟著體す。）

ほとけを學して諸有を解脫するとき、みな出家受戒する勝躅、かくのごとし。

**II. A。** 大般若波羅蜜經第三云、

佛世尊言、若菩薩摩訶薩、作是思惟、我於何時、當**捨**國位、出家之日、即成無上正等菩提、還於是日、轉妙法輪。即令無量無數有**情**、遠塵離垢、生淨法眼、復令無量無數有**情**、永盡諸漏、心慧解脫、亦令無量無數有**情**、皆於無上正等菩提、得不退轉。是菩薩摩訶薩、欲成斯事、應學般若波羅蜜。

(佛世尊言はく、若し菩薩摩訶薩是の思惟を作さん、我れ何れの時に於てか當に國位を**捨**て、出家せん日、即ち無上正等菩提を成じ、還た是の日に於て妙法輪を轉ずべき。即ち無量無數の有**情**をして遠塵離垢し、淨法眼を生ぜしめ、復た令無量無數の有**情**をして永く諸漏を盡くし、心慧解脫せしめ、亦た無量無數の有**情**をして皆な無上正等菩提に於て不退轉を得せしめん。是れ菩薩摩訶薩、斯の事を成ぜんと欲はば、應に般若波羅蜜を學すべし。）

**B。**おほよそ無上菩提は、出家受戒のとき滿足するなり。出家の日にあらざれば成滿せず。しかあればすなはち、出家之日を拈來して、成無上菩提の日を現成せり。成無上菩提の日を拈出する、出家の日なり。この出家の**翻**筋斗する、轉妙法輪なり。この出家、すなはち無數有**情**をして無上菩提を不退轉ならしむるなり。しるべし、自利利他ここに滿足して、阿耨菩提不退不轉なるは、出家受戒なり。成無上菩提かへりて出家の日を成菩提するなり。まさにしるべし、出家の日は、一異を超越せるなり。出家の日のうちに、三阿僧祇劫を修證するなり。 出家之日のうちに、住無邊劫海、轉妙法輪するなり。出家の日は、謂如食頃にあらず、六十小劫にあらず。三際を超越せり、頂**寧**を脫落せり。出家の日は、出家の日を超越せるなり。しかもかくのごとくなりといへども、**籮**籠打破すれば、出家の日すなはち出家の日なり。成道の日、すなはち成道の日なり。

**III. A**. 大論第十三曰、

佛在祇**洹**、有醉婆羅門、來至佛所、欲作比丘。佛敕諸比丘、與剃頭著袈裟。酒醒驚怪見身、變異忽爲比丘、即便走去。

（佛祇**洹**に在しますに、醉婆羅門有つて佛所に來至し、比丘と作らんことを欲ひき。佛、諸比丘に敕して、剃頭を與へ、袈裟を著せしむ。酒醒めて身を見るに、變異して忽ちに比丘と爲れることを驚怪し、即便ち走り去りぬ。）

諸比丘問奉佛、何以聽此醉婆羅門、而作比丘、而今歸去。

（諸比丘佛に問ひ奉らく、何を以てか此の醉婆羅門を聽して比丘と作し、而も今歸去するや。）

佛言、此婆羅門、無量劫中、無出家心。今因醉後、暫發微心、爲此縁故、後出家。如是種種因縁、出家破戒、猶勝在家持戒。以在家戒不爲解脫。

(佛言はく、此の婆羅門は、無量劫中にも出家の心無し。今醉後に因つて暫く微心を發す。此の縁の爲の故に、後に出家すべし。是の如く種種の因縁ありて、出家の破戒は猶在家の持戒に勝れたり。在家の戒は、解脫の爲ならざるを以てなり。)

**B。**佛敕の宗旨あきらかにしりぬ、佛化はただ出家それ根本なり。いまだ出家せざるは佛法にあらず。如來在世、もろもろの外道、すでにみづからが邪道をすてて佛法に歸依するとき、かならずまづ出家をこふしなり。 世尊あるいはみづから善來比丘とさづけまします、あるいは諸比丘に敕して剃頭鬚髪、出家受戒せしめましますに、ともに出家受戒の法、たちまちに具足せしなり。
しるべし、佛化すでに身心にかうぶらしむるとき、頭髪自落し、袈裟覆體するなり。もし諸佛いまだ聽許しましまさざるには、鬚髪剃除せられず、袈裟覆體せられず、佛戒受得せられざるなり。しかあればすなはち、出家受戒は、諸佛如來の親受記なり。

**IV. A**.釋迦牟尼佛言、

諸善男子、如來見諸衆生樂於小法、**徳**薄垢重者、爲是人說、我小出家、得阿耨多羅三藐三菩提。然我實成佛已來、久遠若斯。但以方便教化衆生、令入佛道、作如是說

（諸の善男子、如來、諸の衆生の小法を樂ひ、**徳**薄垢重なる者を見たまひて、是の人の爲に說きたまはく、我れ小きより出家して阿耨多羅三藐三菩提を得たり。然るに我れ實に成佛してよりこのかた、久遠なること斯の若し。但だ方便を以て衆生を教化し、佛道に入らしめんとして、是の如くの說を作す。）

**B。**しかあれば、久遠實成は我小出家なり、得阿耨多羅三藐三菩提は我小出家なり。我小出家を擧拈するに、**徳**薄垢重の樂小法する衆生、ならびに我小出家するなり。

我小出家の說法を見聞參學するところに、見佛阿耨多羅三藐三菩提なり。樂小法の衆生を救度するとき、爲是人說、我小出家、**徳**阿耨多羅三藐三菩提なり。しかもかくのごとくなりといふとも、畢竟じてとふべし、出家功**徳**、それいくらばかりなるべきぞ。かれにむかうていふべし、頂**寧**許なり。

正法眼藏第七十五

爾時寬元四年丙午九月十五日在越于永平寺示衆
右出家後、有御龍草本、以之可書改之。仍可破之